

第5期宮前区区民会議第3回会議

第5期宮前区区民会議第3回会議

- 1 日 時 平成26年10月30日（木）午後6時
- 2 場 所 宮前区役所 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 宮崎委員長、川田副委員長、佐々木副委員長、青柳委員、葛西委員、大槻委員、山田委員、黒澤委員、滝本委員、小田委員、川畑委員、大木委員、田辺委員、細谷委員、太田委員、鈴木委員
 - (2) 参 与 竹田参与
 - (3) 事務局
- 4 議 事
 - (1) 審議経過報告①（仮称）高齢者問題に関する取り組みの部会
 - (2) 審議経過報告②（仮称）魅力発信と次世代まちづくりの部会
 - (3) 部会審議内容についての質疑応答・意見交換
 - (4) 区民会議フォーラムについて
 - (5) その他
- 5 傍聴者数 2人

午後6時2分開会

1 開会あいさつ

司会（豆白） それでは、皆様こんばんは。定刻をちょっと過ぎて申しわけございません。

ただいまより区民会議を開催させていただきたいと存じます。

本日の進行を務めさせていただきます副区長の豆白と申します。どうぞよろしくお願いたします。大変恐縮ですが、着座にて進行させていただきます。

それでは、会議開催に先立ちまして事務連絡をさせていただきます。本日の会議開催に当たりましては、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づきまして公開とさせていただいております。したがって、傍聴、報道機関等の取材許可をしておりますので、御了承いただきたいと思います。

また、会議録の作成に当たり速記者に同席をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

そして、本日発言いただきました内容につきましては、後日議事録の確認をお願いしたいと存じます。なお、確認後の議事録は区のホームページ等で公開をさせていただきますので、御了承いただきたいと思います。

また、傍聴の方々につきましては、遵守事項をお守りいただき、本日の会議に関するアンケートにお答えをいただきたいと思いますので、御協力をよろしくお願いた

します。

次に、本日の委員、参与の出欠状況について御報告をさせていただきます。区民会議委員につきましては、中里委員から御欠席の御連絡をいただいております。あとお二人ほどお見えになっていないんですが、いずれお見えになるかなと思います。よろしくお願いたします。また、参与につきましては、竹田参与に御出席をいただいております。どうぞよろしくお願いたします。なお、織田参与、添田参与、矢澤参与、土居参与、持田参与につきましては、事前に欠席の御連絡をいただいております。

それではまず、議事に先立ちまして、野本宮前区長のほうから一言御挨拶を申し上げます。

野本区長 皆様、こんばんは。

本日の第3回目の区民会議では、第1回目、第2回目を踏まえた各部会の審議経過の御報告をいただけるということで、とても楽しみにしてまいりました。

また、冒頭には、総合企画局の御協力をいただいて、川崎市が今策定を進めている新たな総合計画についてお話をいただけることになっております。

今週、宮前区では大きいイベントが続きまして、日曜日の区民祭、そして月曜日には、皆様にも御参加いただきました、地域課題を解決するための地理空間オープンデータを活用したアイデアソンが、慶應大学等の主催で宮前区役所で行われたところでございます。この地域をどうしていったらいいかとか、将来どんな地域に住みたいねとか、そういったような方向性で集まった方々が話し合いました。また、区民祭の中では、まちカフェといいまして、この町の課題は何だろう、あなたはどの課題が一番関心がありますかというようなアンケートもとりました。そうしたところが、用意しておいたシールがあつという間になくなってしまいうぐらい、皆さん、地域への関心が高いことがわかりました。このように皆さんが地域に関心を持っている宮前区でございます。その代表としてこの区民会議の御審議があると思っておりますので、きょうの審議経過報告も本当に楽しみにしております。そして、これが良い成果につながっていきますようにということをお願いしまして、一言御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いたします。

司会（豆白） どうもありがとうございます。

それでは、皆様に配付しております資料の確認をさせていただきたいと存じます。

まず、表紙がありまして、本日の次第でございます。

1 ページおめくりいただきまして、座席表。

2 ページ目に、委員、参与、あと事務局の名簿となっております。

続きまして、3 ページから6 ページには高齢者部会の経過報告資料がついてございます。

7ページから10ページにつきましては、次世代部会の審議経過報告資料がついてございます。

11ページ目に区民会議フォーラム素案をつけさせていただいてございます。落丁等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

2 川崎市新たな総合計画の策定について

司会（豆白） それでは、次第の2番になるんですが、川崎市の新たな総合計画策定についてということで、本日、川崎市の総合企画局企画調整課より、新たな総合計画の策定方針について説明をさせていただきたいと存じます。市の新たな総合計画については、6月27日に開催した第3回準備部会において事務局より簡単に説明をさせていただいておりますが、本日は、計画の策定の所管課である総合企画局より、現在の策定状況などを踏まえながら、改めて委員の皆様へ説明をさせていただきたいと存じます。恐縮ですが、ちょっとお時間をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、総合企画局、よろしくお願いいたします。

企画調整課担当課長 皆さん、こんばんは。ただいま紹介いただきました総合企画局企画調整課の担当課長をしております阿部と申します。こちらは担当係長の佐藤でございます。実は私は3月までこちらの企画課でお世話になっておりまして、4期からの委員の皆様には大変お世話になりました。御挨拶もできず異動してしまって申しわけございません。きょうは、新しく赴任したところの総合企画局で今取り組んでおります総合計画の策定について、少しお時間をいただいで御説明をしたいと思っております。

お手元の資料ですけれども、「新たな総合計画の策定について」ということで、A3判の資料と冊子状の「策定方針」という資料、それから「参考資料」という組み合わせでお配りしていると思っておりますが、きょうは中身まで詳しく御説明する時間もございませんので、A3判の資料を中心に御説明したいと思います。

まず、総合計画でございますけれども、現在策定作業を進めておりますが、これはことしと来年度の2カ年かけて策定していこうということでございます。市の方針といたしまして、策定の早い段階から市民の皆様の意見を伺いながらつくっていこうというのが1つのスタンスでございます。そういったことで御説明に上がっている次第でございます。

上段の囲みのところをごらんいただきたいと思うんですが、総合計画は市政運営の基本的な理念や方針などを体系的にまとめたものということで、川崎市の将来に向けた道しるべとして策定するものでございます。

右側に三角形の絵がございます。今回策定しようとしておりますものは、おおむね

30年程度の将来まで展望しての基本構想と、それから10年程度の長期計画である基本計画です。それと、ある程度財源の裏づけを見据えて4年ぐらいの中期の計画として実施計画、この3層の構成でつくってまいろうと考えてございます。この実施計画の中には区の取り組みなども書かれていくというようなイメージで今策定作業を進めているところでございます。

今の時点では策定方針を定めているということでございます。

下段をごらんいただきたいんですけども、策定方針では、現在、川崎市を取り巻く状況はこういうことがあるということを幾つか確認しながら策定していきましようということで、例えば課題として幾つかの課題を挙げたりしております。例えばで申し上げますと、これから川崎市も直面していくのは少子高齢化の一層の進展ということでございます。さらに、国においては既に人口減少に転じたと言われておりますが、川崎市も遠くない将来、そういったことが起こり得るということが想定されております。

右側のグラフをごらんいただきたいんですけども、平成42年、2030年152万2000人をピークに、その後は人口が減っていくだろうという将来推計人口を得ております。それに先立って、平成32年、2020年には、65歳以上の人口の割合が21.5%。これは21%を超えると超高齢社会というカテゴリーに入っていくそうなんです。既に日本の自治体の中にはその21%を超えている自治体も少なからずあるんですけども、川崎市におきましてもそういう状況になっていくと。生産年齢人口が減少して高齢者がふえていく、そういう社会を迎えるということを将来を見据えておく必要があるということでございます。そのほかにも財政状況は厳しさを増していくだろうということですか、都市インフラについても、整備してから時間が経過して老朽化が進むと。こういったところにも必要な予算があるというようなことを課題として認識した上で計画をつくっていかうということでございます。

裏面をごらんいただきたいんですけども、そうはいっても課題ばかりではなくて、新たな飛躍に向けたチャンスであるとか積極的に活用すべきポテンシャル、資源が川崎市にはあるではないかということも押さえておきたいと思っております。例えば新たな飛躍に向けたチャンスといたしましては、国家戦略特区に指定された川崎市臨海部のエリアを中心に新しい産業、イノベーションを図ろうとしています。それから東京オリンピック・パラリンピックが予定されておまして、東京に隣接する川崎というのは、そのおこぼれではないですけども、そういった機会をきちんと捉えていける、そういった好位置にあると考えております。あるいは羽田空港の国際化によってさまざまなビジネスであったり観光であったり、海外からのお客様もお迎えできるんじゃないか。そういったことも川崎のメリットに生かしていけるような取り組みに変えていきたいということであるとか。ポテンシャルとして、潜在能力としては

交通の利便、あるいは東京に隣接するという立地のよさ、それから先端産業が集積しているという川崎の産業都市としての側面。特に近年は研究開発機関が集積しているという特徴もございます。それから、文化、芸術においても豊富な資源があるということをご最大限に生かしていこうというのもこの計画の中で踏まえていきたいところでございます。

そういったことを踏まえながら幾つかの重点検討テーマを掲げておりまして、1番の命を守り、生き生きと暮らすことができるまちづくり。その中には、災害から命を守るとか、身近な地域で支え合う仕組みの構築、現時点ではこういったところを策定方針の中で重点的に考えていきたいということで掲げてございます。全部で5つの柱、11の項目でございます。お手元の冊子状の中の「参考資料」に詳しく書いておりますので後ほどごらんいただければと思っております。

A3判の右側ですけれども、策定スケジュールとしまして、先ほど申し上げたように、26年、27年、2カ年かけて策定をしております。現在のところ、各区で無作為抽出によるワークショップなどを行いました。また、さきに行われました宮前区の区民祭でも、まちづくりカフェといったところで皆様から意見を伺えるようなブースを設けてきたところでございます。そして、市民検討会議というのが別に立ち上がっております、21人の委員の皆様によって議論が行われていたり、有識者会議も立ち上がっております、精力的に議論をしていただいたりしております。こういった場面で市民の皆様からいただける意見を各種会議にお諮りしながら、皆様と一緒にできるだけつくっていききたいと考えております。

また、ちょっと宣伝なんですけれども、お配りした中にカラー刷りのパンフレットがあると思うんですが、11月8日に高津市民館におきまして全市フォーラム、市民フォーラムを開催しようと思っております、ぜひお時間の許す方にはお越しいただければと思っております。

このパンフレットの中に、裏面になるんですけれども、左下です。地域における市民活動を御紹介ということで、これは宮前区の公園体操を取り上げて御紹介しようと思っております、実はルー大柴さんというタレントの方が宮前区の公園体操に積極的に参加していただいているんですが、当初御参加いただける予定だったんですが、あいにく参加いただけないことになりまして、ここだけちょっと訂正させてください。そのかわり、申しわけないので、ビデオレターをお寄せいただけるということで承っておりますので、そちらのほうはお楽しみにということでございます。

以上、私どものほうからの御説明でございます。これからも検討の様子を少し注目していただきまして、何かもし御意見がいただけるようであれば、いろんな形で御意見がいただけるように用意してございます。きょうも御意見をいただけるようにペーパーを1枚つけさせていただいておりますので、何らかの形で御意見をいただければ

と思っております。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

司会（豆白） ただいま新たな総合計画に向けて、総合企画局企画調整課より説明をさせていただきます。せっかくの機会ですので、この機会で何か御質問がございましたら、若干時間をとらせていただければと思うんですが。

大槻委員 御説明ありがとうございます。この三角形の図形の上の1番、基本構想というのがありますけれども、前につくられて、ちょうど見直しの時期になるかと思うんですけれども、1番、基本構想の中で今回見直さないといけない点、あるいは変更するような重要な点はどういうところを考えられているのかというのが1点。

あと、総合計画を見ていきますと、川崎市全体のほかに、例えば宮前区構想とか、いろいろ区ごとに書いてありますけれども、その区の構想というのはどういうふうな形で作られていくのか。今の話は川崎市全体としての取り組みだと思うんですけれども、区のあたりはどういうふうに考えていくのかという2点をお願いしたい。

企画調整課担当課長 ありがとうございます。

まず初めに、フロンティアプランというこれまでの計画がございました。こちらの変更点といいますか、ここがこう変わるという御説明の仕方にはならないと思うんですけれども、フロンティアプランを策定した時点では、ぼんやりとはわかっていた人口減少、超高齢社会の到来と。これがもう現実に対応を要するようなところまで来ているということで、そういったところが、先ほど御説明したところともかぶるんですけれども、少子高齢化、人口減少への転換、こういったことが非常に大きな要素になってくると思っております。そこに対する将来展望、こういったものが少しウェイトを持ってくるのかなと思ったりします。あるいはインフラの老朽化といったところも恐らく重要な要素になってくるかなと思っております。まだまだこれから学識経験者などの意見もいただきながらの策定になりますので、今の時点で断定的なことは申し上げられないですけれども、そういったイメージを持っているところでございます。

それから、区ごとにはこういった形で策定されるのかという御質問だと思うんですけれども、区のほうでも、区の計画、これは具体的な実効性が一定程度担保できるようなレベルで、4年の中期計画に当たる実施計画に相当するものと考えております。こちらにつきましても、区の中で職員の参加、あるいは市民の皆さんとの対話、これは区によっていろんな手法があると思っております。そういったものを踏まえながら2年かけて策定していくということになってまいります。

大槻委員 ありがとうございました。川崎の西のほうでございませうか、羽田空港との向かいのあたりであるとか、このあたりは新しい取り組みでいろいろ活発に投資されているわけがありますけれども、それと対照にこの西側のほうは、やはり川崎市の台所をいろいろ背負っているような、焼却炉であるとか北部市場であるとか、そういうふう

なところがありますので、その光といいますか、そういう産業都市として発展するものを支えているという地区にもやはり目を配った計画にぜひしていただきたいなど。このアンケートにもまた書きたいと思えますけれども、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

司会（豆白） どうもありがとうございました。

そのほか、御質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、もし新たな総合計画に関しましてまた御意見がございましたら、皆様のところと同封させていただいておりますアンケート用紙を企画課のほうへお届けいただいても結構ですし、直接市のほうへファクス等でお送りいただいても結構でございますので、どうぞよろしく願いをしたいと思います。

3 議 事

- (1) 審議経過報告①（仮称）高齢者問題に関する取り組みの部会
- (2) 審議経過報告②（仮称）魅力発信と次世代まちづくりの部会
- (3) 部会審議内容についての質疑応答・意見交換
- (4) 区民会議フォーラムについて
- (5) その他

司会（豆白） それでは、これより第5期宮前区民会議第3回会議を進めてまいりたいと思います。

これからの進行につきましては宮崎委員長にお願いをしたいと存じます。それでは、委員長、どうぞよろしく願いいたします。

宮崎委員長 どうもこんばんは。

それでは、早速ですが、これから全体会議の議事を進めさせていただきます。

今回、今期第5期の宮前区の区民会議で前回の全体会で2つの専門部会を立ち上げまして、その後、委員はそれぞれの専門部会に分かれました。そちらから見て右側が高齢者部会のメンバーで、こちらの左側が次世代部会のメンバーの方でございます。後、それぞれの部会長から審議の経過報告をさせていただきますので、よろしく願いいたします。過去2回専門部会を立ち上げ、いろいろな議論をしてまいりましたが、まだまだテーマを絞り切れず、次回までには多分その辺を絞り込まなければとは思っていますが、まだ軸足を多少ぶらぶらさせている段階でございます。

そんなことではございますが、まず、きょうは高齢者問題に関する取り組み部会の経過報告について川畑部会長のほうからお願いいたします。

川畑委員 こんばんは。高齢者部会長を今回引き受けることになりました川畑と申します。私は公募で応募して今回この区民会議に参加させていただきました。理由は、私もともと看護師で病院でずっと仕事をしながら、あと神奈川県の外郭団体に介護保険

だとか、あと認知症サポーター等の支援とかをやっていた関係で、これからの高齢社会に関して私の力が役に立てればいいかなということと、もう1つは、プライベートで4歳になる子どもがいて、あと義理の両親がもう定年を迎えていますので、そういったのも含めてお役に立てればいいかなということで参加させていただいております。

私の挨拶は以上にして、早速、2回ほど審議を重ねてきましたので、資料を見ながら、あとスライドでごらんいただきながら報告したいと思います。よろしく申し上げます。

まず、第1回を9月25日に行いました。このときは参加者がちょっと少なかったためにテーマを決めずに自由に議論をしました。その議論の内容については、お手元の資料の第5期第3回会議という中の、先ほど司会からあったように、3ページから6ページまでに記載しておりますので、そのほうをちょっと御参照いただければと思います。第2回目では、それを踏まえて、実際高齢者の方の問題、あるいはこれから地域のシステムをどういうふうにつくっていくかというところが主に出てきたので、その辺を焦点に合わせながら、実際高齢・障害課の課長さんにも現状の宮前区の報告をしていただきながら議論していたという経過でございます。

こちらが、御存じの方もいらっしゃるかと思いますが、実際に川崎市各区の高齢化率というところでここに示しております。高齢化率は、ちまたでもどんどん高齢化というのは聞いていますが、川崎市は比較的若い方が多いということです。ただ、特徴的に、ここを見ていただきたいんですけども、当初平成16年のマークがあるんですが、そのときはまだ低かった。ところが、ことし、平成24年、これが10月には18.7%と。これは市内で第4位にふえていくという現状があるということです。そこを認識する必要があるかなと思っております。つまり速いペースで高齢化が進んでいるということです。

続いてお願いします。これは各区の要介護の認定率です。これは、宮前区の場合、介護度の認定が比較的低いんです。というのは元気な方が多いということです。市内でも15%ぐらいの率になっているんですが、全国平均は25年度で17.8%。川崎市全体では17.2%となっていますので、かなり低い率になっております。

続いてお願いします。注目すべきなのがここです。もう1点が、先ほど介護度の低い方が多いということだったんですけども、もう1点特徴なのが、全国平均で男性の平均寿命が第2位だということです。これも御存じだと思うんですけども、私は知らなかったんですが、びっくりしたということです。ちまたでは女性が結構元気だということなんですけれども、宮前区はそういう特徴があるかなと思っております。

続いてお願いします。ここをまとめますと、元気な高齢者が多い町だということと、もう1つは、特徴としてボランティアが結構活発だということです。ここも御存

じだと思っんですが、この間も区民祭でいろいろ活動報告があったんですけども、私も今回初めてその区民祭に参加したんですけども、かなりの活動をされているなというのを実感した次第です。そういう区だということですね。こういうところから、要は元気な高齢者が多い、ボランティアもいる。ここをうまく活用しながら、元気な宮前区をつくっていけないかというところを議論してきたということです。

続いてお願いします。ちょっと紹介すると、こういうのがあるんです。例えば土橋カフェ。これは認知症のカフェなんですけど、クリニックの先生とか施設の方もかかわりながら、カフェスタイルでそういう認知症の方と交流を持っているということです。あとは、ミニデイとか、これ意外なのが整形外科でのコミュニケーションとか、やっぱり節々が痛くなりますよね。そこで、はり、マッサージに行くと思うんですけども、目的ははり、マッサージなのかもしれませんが、自然にコミュニケーションの場になっている。よくお笑いで、病院に集まってこなければ、何かちょっとぐあいが悪いのかなど。きょう誰々さんが来なかった、見えないんですけども、ぐあいが悪いのかなというような笑い話があるように、ちょっと1つの例かなというところですよ。

続いてお願いします。これがもう1点の地域包括ケアシステムということです。このシステムは、もう結構お聞きになっているかと思いますが、来年度から要支援1、要支援2の方が介護保険から外されるということが決まっています。そのときに、ではどうするかというときには、やはり先ほどから出ているボランティアだとか、そういう方々の力もかりながら、結局は、医療費の、病院の形態があるんですけども、ここもどんどん在院日数が減らされていきますので、そうすると、どんどん治療がままならない方が地域に出ていく。そこら辺をサポートするような仕組みをつくってほしいというのがこの地域包括ケアシステムなんですけど、そこは先ほど言ったように、そういう専門家の方々だけでなく、もちろん保険もこれから厳しくなります。当然行政だけではやれない。ですので、一般の方々も一緒になってこのシステムをつくり上げるということがもう方針に出ていますので、公民連携型という、格好いい言葉ですね。形のシステムをぜひ我々の部会では検討していく必要があるんじゃないかということが話し合われたということです。

続いてお願いします。まとめますと、こういうふうに、先ほど言ったように、宮前区は若い方も多いですので、お子様も多いです。ですから、そういう子どもから高齢者まで支え合えるような仕組みをぜひ議論しながら今後深めていきたいなと思っています。我々部会では、実際に活動しているところも見て回りながら、これまでの何期かやってこられた経過を踏まえながら、そこも生かしながら、現状を把握した上で、例えば今問題になっているのが、活動は出ているけれども、参加員がだんだん減ってきているという団体もございますので、その原因がどうなのかということも踏まえ

ながら、これから議論を進めてつくり上げていきたいなと思っています。

ちょっと長くなりましたが、以上で報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。

宮崎委員長 川畑部会長さん、どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、魅力発信と次世代まちづくり部会の審議経過報告について、青柳部会長さんのほうからお願いいたします。

青柳委員 どうも、皆様こんばんは。私もことし初めて公募という形でこの会議に参加させていただきまして、魅力発信という形で2回ほど会議をなされて、そのときにちょっと自分が欠席していたら、いつの間にか部会長という大役であたふたしておりました。実際そういう中でございますけれども、やはり私自身、宮前が好きだということでいろんな活動をさせていただきまして、また皆さん方と一緒にこういう場に参加させていただいたことでありますので、未熟ながらもできる限りのことはさせていただいて、結果が出るように頑張っていきたいと思いますので、皆さん、よろしく願いいたします。

それでは、手持ちのメモを見ながら、皆さん方に御報告という形になりますけれども、御了承をお願いいたします。

それでは、次世代部会審議結果報告ということで報告させていただきます。

魅力発信と次世代まちづくりの部会、通称次世代部会でこれまで審議してまいりました経過を報告いたします。次世代部会は、9月26日に第1回、10月21日に第2回を開催しました。第1回会議では、ワールドカフェ形式によるワークショップを開催しました。4人と5人の少人数グループをつくり、途中半数のメンバーを交代しながら、宮前区の今を語ろう、未来を語ろうというテーマで60分程度の議論を行うものです。このワークショップで話された内容をもとに、第2回会議でさらに議論を深めていきました。また、ここで部会長選出が行われました。ということで、私自身がいつの間にか選ばれたということでございます。

それではまず、第1回会議のワークショップでの結果から振り返ってみたいと思います。この次世代部会は、準備部会において意見の多かった魅力発信と未来のためのまちづくりという2つのテーマを合わせてつくられた部会で、設立時点では議論内容は白紙に近い状態でした。したがって、ワークショップのテーマも細かく設定せず、今を語ろう、未来を語ろうというものにして自由に意見を出し合いました。

これがワールドカフェの仕組みになっております。その結果を大きな図で示しておりますが、宮前区の現状を語る上では地域による特徴が大きく異なるという点が根幹となることがわかりました。宮前区は、野川・有馬地区、宮前平・鷺沼など田園都市線沿線地区、そして菅生・向ヶ丘地区という3つの地区に分けられ、それぞれに交通環境や住民の世代構成、地域活動などに大きな差があるようです。豊かな自然が多い

地区がある一方、交通至便の地区もあり、また伝統文化が住民に根づく地域がある一方で、区外や市外に活動拠点を置く住民が多い地域もあります。そうした現状があると認識した上で、では、町の未来に向けて何をしていくかを次のラウンドで話しました。この結果、3つの地域の特徴を生かしたまちづくりをしていけばよいのではないかと、各地区の特徴を競い合うようなイベントをしてはどうかという意見も挙げられました。また、伝統文化の継承や地域の特徴を生かし、効果的な情報発信が必要であるという意見も出ました。

これはワークショップのラウンド1と2、今を語ろう。左側です。それで、右側のほうにラウンド3、4、未来を語ろうと。真ん中にありますのが、それらを結びつけた課題として挙がってきているものでございます。

第2回では、いま一度このワークショップの結果を振り返り、今度は具体的な提案や事例研究をしていくことを踏まえて議論を進めてまいりました。ワークショップで挙げた情報発信や各地区対抗でお土産物をプロデュースしたコンテストを開催するなどという意見に賛同が集まりました。部会の現時点での議論の方向性は、地域の魅力発信をいかにしていくかということになりました。

委員が互いに意見を出し合った中で見えてきたのが、たくさんある区の魅力をめぐる企画を立ててみようというものでした。さらに検討を進めた結果、過去の区民会議提案でつくられたみやまねカルタで紹介されている名称を基本にして、区内名所をめぐる途中下車路線バスの旅を企画いたしました。まずは、部員それぞれ、ここぞというところを出し合いながら幾つかのコースを考えております。例えば宮前歴史めぐり、あるいは宮前にはおいしいお店もたくさんありますのでグルメツアーとか、子どもさんたちが夏休みとか春休みに自然に触れ合える機会が非常に多い地域でございまして、自由研究向けなどのコースを遊び要素を加えながら設定した幾つかのコースを好きなものを選んで参加いたします。その結果を次回の専門部会で恐らくまとめて、そういう段取りにするようにしてあります。企画が成功すれば、1つ1つの区民会議の成果として発表も考えると思います。また、ここからさらなる魅力発信手段へ発展できるかもしれません。おいしいお店などは、めぐれば地元商店街の活性化にもつながるし、市民活動の場を見て回れば、そこから新しい交流の場が生まれることもあります。また、住民に身近な路線バスを利用することで、住民環境の課題点も見えてくるかもしれません。この企画にそうした可能性を込められているという思いを込めて、委員みずからが参加をして考えを深めていきたいと思っております。この企画の詳細な結果については次の全体会で発表できると考えております。

これがこれまでの審議結果の報告でございます。どうもご清聴ありがとうございました。

宮崎委員長 青柳部会長さん、ありがとうございました。

両方の部会とも、現在は課題の方向性を絞り込んでいる段階でございますので、次回ないし次々回で、その辺のより具体的な解決方法を検討していく段階かと思っております。今回の3つのエリアによってそれぞれの地域の役割が全然違うわけで、まだまだその辺のところが見えてないところもあるわけですので、それは今後しっかり対応したいと思っております。

さて、今回の報告に関して皆さんの質疑応答やお持ちの関連情報提供などがございましたら、ぜひともひとつこの場をかりてお話しいただければと思っております。

まず、両副委員長からもし補足などがありましたらお願いいたします。

まず、川田副委員長さんの先ほどの高齢者部会のほうで何かありましたら、ちょっとお願いします。

川田副委員長 先ほど部会長のほうから高齢者部会の報告をしていただきましたけれども、高齢者部会としては、本当に地域包括ケアシステムというものがどういうものか、それがどういうふうに関わってくるのかということをやっぱり知りたいということで勉強させていただきました。結局、重度の要介護になって施設を探すのではなくて、自宅で最後まで暮らせるように、そしてその暮らせるために支えるシステムをつくりましょうということなんだと思います。

要支援1、2という、ちょっと元気な方ですけれども、病気予防ということでデイサービスなんかに通っていらっしゃる方もいますけれども、それがなくなります。給付金が廃止されるということです。これからどんどん高齢者がふえていけば、皆さんにそういうふうに関わっていただくにはどうしても資金が足りないというのは目に見えていることですので、それをどうしたらいいかということで、介護予防、それから日常生活総合事業というのを行いなさいよと市町村に振られているわけです。ですので、川崎市としては、川崎独自でこの事業をどういうふうにしたらいいかと、今、検討しているところだと思いますので、それにつきましては私たちはまだ何も動くことはできません。

ただ、地域包括ケアシステムというのが、2025年を目安に動いていくということです。私たちが重度になっても自宅で暮らせるのであれば、それに対して支援をしてもらう。そのためには、住まいや医療、介護、予防、生活支援というのを、そういった多方面から支えるシステムをつくる。これは恐らく地域包括支援センターが中心になっていくと思うんですけれども、そちらのほうで、今までは地域包括支援センターがつなぎの役目はしていましたけれども、つないだ後、その方のことがわからない状態になっていますので、それがどこの方面からもその方の情報が得られるという、こういった一体化したシステムができ上がってくると思うんです。今、5本の柱を言いましたけれども、その中で生活支援というのを今申し上げましたけれども、ここのところが私たちにはかかわってくることになると思うんです。結局、行政にしても、それ

から事業サービス者にしても、やれるところは決まっているわけです。ここまではやれますけれどもというのがあるんですけれども、それ以外のところ。やっぱり暮らしている高齢者の人、介護の人が元気に、それから自分が生きがいを持って暮らしていく、自分が生きている価値を見つけるためには、やっぱり隣近所の支えがとても大事だと思うんです。それが恐らくこのところで地域住民に求められているものだと思うんです。

ただ、これは本当に2025年という長期的取り組みになりますけれども、住民意識というのはなかなか一長一短ではできないものですよね。ですから、支え合いが大事というのはどこの地域でも言っています。実際皆さん身にしみて思っているとは思いますが、それは一部では動いてはいるけれども、全体の動きにはなっていない。これはやっぱりやってもらうことが当たり前になっている意識が強くて、自分たちのことだから自分たちで動こうという意識がなかなか育っていったいない。これをそういうふうに変えていくためにはかなり時間はかかると思います。ですので、それは本当に今すぐにでも取り組まなければいけないことだと思いますので、高齢者部会のほうはそういうところを重点に置いて取り組んでいったほうがいいのかと思っています。済みません、長くなりました。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

それでは、次世代部会のほう。

佐々木副委員長 次世代部会のほうに所属しております佐々木です。

今、青柳部会長のほうから審議結果の報告がありましたけれども、最初の第1回目で、ワールドカフェという形で自由にそれぞれが意見を言った結果をまとめてきょうの発表につながっているんですが、今回第5期は早い段階で少し具体的なテーマと、あと実行性を出していこうというのが大きく皆さんの意見でありました。それと、今回第5期の区民会議ですが、第1期から第4期までいろんな提案があるんですが、それがなかなかつながっていないのがありましたので、第5期としては、今までせっかくやってきたこともつなぎたいという、その2つから、私どもは魅力発信ということで、まず委員自分たちがいろんな体験をして、それを発信することにしたいなということで、ぶらりバスのツアーということで、どっかで聞いたことがあるかもしれないんですが、そういう企画が持ち上がってきました。今、委員の皆さんそれぞれが自分でいろんなテーマを考えて、これからコースを選定していく途中でございます。例えば歴史をタイムスリップしていくような企画だったりとか、自然を体験するようなツアーとか、そういうものが具体的にこれから出てくる形になるのかなと思っています。そういう具体的な、いろんな魅力発信をしていく中で、最終的には、次世代にはこの宮前区はどんな町になったらいいかという視点で、最後、我々部会は話し合っていくのかなと思っています。

先ほど市のほうから新たな総合計画ということで、区の実施計画も含めて、最終的に2年かけてまとめるということですが、私どもは割と身近な目線から逆に大きなテーマに広げていくというふうな手法をとりまして、それが有機的に結びつけばいいんじゃないかなとは個人的には思っております。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

それでは、どなたか、委員の方で御意見、では、もしありましたら順番でお願いしますか。

大木委員 これから高齢者は必ずふえると思うんですけども、ふえれば、今やっている地域包括支援センターの強化が重要ということはわかってくるわけですけども、なかなかその地域包括支援センターだけでは賄い切れないと思うんです。そうすると、その下部組織として、やっぱりその地区をよく知っている住民ですか、そういう方がやっぱり基盤となって、官民一体というか、公民一体というんですか、そういう集まりがないと、その中には民生委員とか自治会の関係者なども関係してきてしまうのかなということもございますけれども。何しろ困っている人地域包括支援センターのつなぎ役というんですか。困っている人というのは連絡場所も何もどうやったらいいかわからない状態だと思うので、そのつなぎ役としてそういう組織ができればよろしいのではないかと今私は考えているんです。

あと、先ほどそちらの部会でムコウガオカと言っていたんですけども、正式には出張所の名前もムカイガオカということらしいんですね。

私からは以上です。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。田辺さん、よろしくお願ひします。

田辺委員 今2つの部会の報告と、その前に総合企画局からの簡単な説明をいただきました。本当はこれの中身を全部読んでからコメントすべきなんですけれども、読んでいないので恐縮なんですけど、いずれにしても、この川崎市全体としても、あるいはこの2つの部会にしても思うんですけども、こういう統計とか数値ははっきりしているわけですけども、実際、川崎市民あるいは宮前区民の中身がどうなのかということをごどこかできちっと押さえる必要があるのかなと思うんですよね。

日本全体の話をしますと、今、余り景気がアベノミクスでもそれほどうまくいっていない。年収200万円以下の方が1000万人以上いる。ひきこもりの人も二十から60歳まで、これは統計のとおりよりもよりますけれども、160万人いるし、中高生のひきこもりというか不登校も80万人ぐらいいる。実際に私も10年近くまちづくり協議会をやってきました、まちづくり活動、それからたくさんの方の市民活動団体を知っていますけれども、先ほど部会長からも報告がありましたけれども、本当に先細りなんですね。今、はっきり言って、65歳、70歳以上の方は比較的恵まれたリタイア生活を送っていらっしゃると思うんですけども、これから10年、20年先、60歳、70歳になる人は、

はっきり言って相当、今の70代の人よりも、簡単に言えば経済生活はかなり厳しいと思います。そうした中で、これからのこういういろんな課題に取り組むにしても、実際に財政の問題もあり、全て行政に頼るわけにはいかないことは重々わかっていますけれども、では、実際に我々区民1人1人が受益者であると同時に、そういう地域活動の担い手でもなければいけないわけなんです、その担い手に果たしてなり得るのかというのが私の素朴な疑問です。

長くなるので、あと1点だけ申し上げますと、この魅力発信と次世代まちづくりの部会、この緑色と茶色とピンク色の表を見たんですけれども、これはずっと昔から、まちづくり協議会でも、数百ある市民活動団体でも全部やっていることなんですけれども、残念ながら余りうまくいっていないのが現状なんです。ですから、ここをもうちょっと課題を掘り下げていただきたいというのが私の要望です。

細谷委員 今後についてですが、宮前区は何かしら、高齢者が川崎市の中で2番目に多いと伺って、ただ、非常に若い高齢者が多い中で、あと、先ほどの総合計画の中の基本計画に値する10年後というのはみんな75歳以上の方が相当多くなる宮前区になってくると思うんです。そうすると、行政の支援のない中でやっていくのに、やっぱり財源がない中で高齢者支援がすごく難しくなってくるというのが、どういうふうにしていいのかが先細りで非常に心配です。だから、私自身もどういうアイデアを出せるのかどうかかわからないんですが、皆さんとともに御意見を聞きながらやっていきたいと思っています。

太田委員 太田でございます。私は第2回の部会をちょっと欠席してしまったので流れに乗れるかどうかわかりませんが、私は実際に社会福祉協議会のボランティア活動振興センターの運営委員長をやっています、ボランティアの現実は大変厳しゅうございます。宮前のボランティア活動は、本当に五、六年前までは活発だったんですが、ここに出ているボランティア、21会の皆さんももう後期高齢者になってしまっている。現実は大変厳しいというボランティアの状況があります。でも、それをどうしようかということで、今、振興センターのほうで講座を開きますと、傾聴ボランティアがとても人気なんです。それで、今いろんなグループができてきているんですけれども、そうやって1つ1つグループをつくっていかないと、なかなかこれからの高齢化社会を支えていけないなと思っています。

それと、私は以前ちょっと調べたことがあるんですが、宮前区には有料老人ホームが多いので、籍が宮前にあるのか、自分の住居地の東京とか、そういうところにあるのかかわからないんですが、どうもそれが押し上げているんじゃないかという話もちょっとありますので、そうした高齢者の数字の実態をやっぴりちゃんと調べたほうがいいんじゃないかなと。実際はそうじゃないんじゃないか。そんなに住んでいる人たちは多くないんじゃないか。施設でふえてしまっているんじゃないかとか、そんなこと

からやっぱり考えたほうがいいかなと思っています。

それから、地域包括ケアですが、やっぱりなかなか大変だなと思ってまして、先日、ちょっと社会福祉協議会のほうで説明がありまして伺いましたけれども、そうしますと、町内会の方が老人クラブ連合会の皆さんにもっと活発に動いてもらいたいと言っていましたけれども、なかなか1つ1つ厳しいなと思って。今何をしたらいいんだろうかというのがとても課題を抱えて悩んでいる状況でございます。

短うございますが、失礼いたします。

鈴木委員 鈴木と申します。私も、もう10年、一回りすると高齢者、65歳になるんです。我々の年代が一番多くて、昭和40年代前後に生まれた方が多くなりまして、本当にこれからどうなっていくのかなと思うところが、財源も先細りになってしまうということもあります。

うちのそばは東有馬なんですけど、ここのところ老人ホームが2つ、1つはもう始まってまして、もう1個は許可するよということで、幼稚園のそばと学校のそばにできます。学校のそばは、多分子どもたちとの交流とか地域の交流の場というか、そういうほうに持っていける場がたくさんふえていいんですけども、私としてみれば、うちの親なんかも元気なので、余りそういうところに世話にならないように元気なお年寄りになりたいなと思っているんですけども、第1団地、第2団地とか住宅がたくさんある中で、そういうところに入れられない方も入られる方もおると思うんですけども、今後、何か私にできることというのかな、お年寄りになっても何か教えられることという野菜づくりかななんて。畑がありまして、その場に市民農園が2つばかりできまして、そこはもう本当に憩いの場なんですね。生き生きとしたお年寄りがいます。自分も元気だったら、そういう方々に野菜というのはこういうふうにつくるんだよ、ああいうふうにつくるんだよというの、少しは話せる場が近くにあるので、それで元気をあげたりもらえたりできるのかなと思います。

いずれにしろ、本当に財源不足になると思うので、これからその辺が手厚くできたりできなくなっていくのかなというのが心配です。

小田委員 宮前区は高齢者が大変多いんですけども、子どもたちも多いかなと思います。私の住んでいるあたりは、小さな子どもたちと若いママさん、パパさんたちも結構いらっしゃるんです。ですから、もう本当に子育て支援、あと高齢者の支援とがつながるということがすごく大事ではないかなと思います。

また、ボランティアもとても多くて、私自身も有料老人ホームなどでレクリエーションなどをやっている関係で、どこのホームがどんな状態かということも大体わかるんですけども、次世代と魅力発信ということからすると、宮前区は緑が多くて、要するに高齢の方たちが憩えて安らげる、そういった場の整備をもっとして、それをPRしていくということがとても大事だと思います。それはすなわち子どもたちにとっ

ても、自然と一緒に遊べる、自然の中で体を動かせる、そういう環境も維持して守って育てていくということがとてもいいのではないかなと思います。

そのためには、宮前区にまだまだある自然、生き物とか樹木、それから虫とか魚など、そういったものがどこにすんで、どこにいるか、どこに行ったらどういう自然のものが見られるか、どういう自然の中で安らげるか、そういうものを広くPRするためにマップなどをつくっていったらいいのではないかなと思います。

本当にボランティア活動をしているグループや団体は宮前区は星の数ほどあるんですね。だから、そういった方々は、自分たちの住んでいるところ、自分たちが活動している地域については自然についての情報をかなり持っているんです。だから、どの季節にどこに行くとカワセミが見られるとか、それから一、二年前にハクビシンがおうちの天井裏にいた、それを見つけたという話も私は見た人から聞いていますし、私自身は菅生のほうにタヌキが出たのを目撃したんです。コンビニの駐車場の横の側溝のところにかわいらしいタヌキがいました。そのまま茂みのほうに行ってしまったんですけれども、私はたまたまそういうのに出会ったり聞いたりしたんですけれども、そこに住んでいる方たち、またその地域で活動している人たちはさまざまな知識を持っている。そういったものをやっぱり自然の魅力の発信というところにつなげていくためにマップをつくったり、あと何らかの写真を撮って画像で流したりとか、そういうふうなことをやっていったらいいかなと思います。

あと、私の知り合いは宮前区には文化がないと言っていたんですけれども、具体的な細かい話は聞いてはいないんですが、考えてみたら、文化的なものとしては、遺跡は何カ所かありますし、あと宮前区に伝わる芸能というのがあるんです。私の知り合いが馬絹神社で子どもたちにお囃子を教えているんです。今現在はどうなっているのか、四、五年前は教えていたんですけれども。その人がちょっと愚痴っぽく言ったことには、子どもたちは練習日には集まって練習はするんですけれども、それは小さな子どもたちで、だんだん大きくなるとサッカーのほうに移ってしまって、芸能を伝えていきたいんだけど、なかなか育っていかない。別なスポーツのほうに移ってしまう、そういったことを嘆いていらしたんです。ですから、そういったものも何か手だてがないかなと思います。それでも、一生懸命地域のほうで、さまざまな伝統芸能、白幡台だったら樽太鼓とか、大塚の太鼓とか、野川の大地とか、親子太鼓とかあります。ああいったものも、発表の場があって、発表しているから、それをまた見て楽しむ人たちがいるから続いていっているんだと思うんですけれども、それをもっと魅力につなげて、広く伝えて、次を継ぐ人たちにつないでいけたらいいのではないかな、そんなふうにいるいろいろ思うところがあります。

滝本委員 私も先日の区民祭に参加して、実際に本当に人出があるなとか子どもが多いなというのは人の動きを見て感じることがあります。あと、本当に私の身近なところ

で、隣近所の助け合いですとか、子ども会加入率が低下していることで、地域の中でどのようなつながりを持てるかというのは子育て世代にとっても切実な問題であります。台風によって学校が休校になっても親は働きに出ていかなければならないので、学童はないけれども、子どもをどうしようというときに、今まで塾や学童や学校に預けていた時間を隣近所の中で誰が子どもの知り合いだろうというのは、次世代にとっても今リアルにみんな共通して持っている課題だと思うので、そういうことを実際に口に出してアイデアを投げ出す、困っていることを共通の意識の中でアイデアを出し合う、困っていることからそういうチャンスにつなげていく。周りの人を巻き込んで実際に動きとして何か、地域の資源をもっと掘り起こそうよだとか、町内会の行事に参加することで知り合いがふえたよとか、そういう場所が次世代にも高齢者にもあるといいなと思いました。

あともう1つ、アイデアソンの話。実際オープンデータとかそういうものがどんどん、私はのぞき見みたいな感じで最後のほうを見たんですけども、あの熱気があるので、実際声には出て上がってこなくても人々の中には関心があるので、その関心をつなげていったらいいなと思いました。ああいうことを大人であれだけ熱気があるから、小学校、中学校の授業でやったら、今の時代、どんなにおもしろいネタが出てくるだろうというのをちょっとわくわくしながら考えたので、区民会議とかそういうところから、もしいいと思ったら、ぜひ小学校や中学校でそういうふうなものにできたらいいなと思いました。

黒澤委員 向丘地区連合自治会から推薦を受けて区民会議の委員になっております黒澤です。私の発言の情報源というんでしょうか、それから知識の源は、長いこと自治会活動を通じてのバックグラウンドから発信されるものでありまして、したがって、これからなぜ私が次世代まちづくりの部会というのを変えたかということについてはもう前回お話ししました。そちらの高齢化問題については自治会のほうでかなり取り組んでおりまして、かなり実務的にやっているのです。しかし、今、自治会活動から見える課題、問題点について、短期的、中期的、長期的な見方で区民会議でどのぐらい発信して、魅力、次世代をつくれるのかというのは、正直、私はワールドカフェで2回しかやっていなくて、皆さんとお話ししまして、まだ小学校の知識のレベルかなと。大学受験ができるのか、あるいは卒業できるのかというのは2年間かかってかなと考えております。それでは、問題意識というのはどうあって、それをどうやって短期、中期、長期で解決するのがこの魅力づくりのいろんな課題を教えてもらいながら対応したいと考えているんです。

そこで、先ほど自治会の問題というお話がちょっとございましたけれども、まず老人問題というのがありますね。高齢化問題は当たり前です。私どもの自治会は日本で2番目の高齢化社会です。32.3%の菅生3丁目。そこでの高齢化問題というのは、老

人会でどうやって楽しんでもらえるか、それが1つ。老人会というのはあるんですよ。もちろん100名ぐらいおられて、本当は対象者360名ぐらいいるんですけども、実際には100名ぐらい。そして、その中で常時出てくる方が30名から40名なんです。そういうところを自治会役員として、もっと集めてよ、もっと楽しんでよ、楽しみ方というのはいっぱいあるでしょうと。コーラスだとかダンスだとか何とかと。ところが、そこら辺がなかなかうまくいかない。

それからもう1つ、老人会というのが要援護者が多いじゃないですか。今、登録済みの要援護者は私どもの自治会の中では12名いるんです。全部チェックすると28名ぐらいいるんです。そうすると、その要援護者、今、高齢化社会のお話で、川田会長も私なんかと一緒に自治会の関係ですのていろいろ包括ケアなんかでお話しするんですけども、その中でポイントは、自治会が見るポイントというのは、地域包括支援センターというのは行政的にやってくれるけれども、行政から依頼を受けている自治会が対応しなければいけないのは要援護者なんです。災害時の要援護者ですよ。災害時にどうやってサポートしていくんですか、助けるんですかと。このことが苦しいんです。皆さん苦しんでいる。だから、老人問題というのはその2つがある。

それからもう1つ、魅力づくりというのがあるんです。ですから、野本区長が最初の挨拶で、加入率が66.2%なのは宮前区ですと。これほど自治会活動を真剣にやっている地域の方々がいるのに加入率がどうしてこんなに少ないのというお話がありました。うれしいアドバイスをいただきまして、そこには何が必要なのか、こういう課題がありますよね。魅力発信。そのベースが私がここを選んだ大きな理由なんです。魅力発信というのとは何か。老若男女、皆さん、魅力発信しなければいけないですね。加入率が低くなっているというのは、老人はいいにしても、若い世代ですよ。若い世代がなかなか、その魅力をどうやってつくっていくか。そういうところを本当にこれからやっていかなければいけないですね。

というところとか、今の自治会の課題は、高齢化、少子化であるとか簡単な表現で言っておりますけれども、そんなに簡単ではないよと。実態はもっともっとざらざらしたというのか、お金で解決しないようなところがいっぱいある。感情的な問題。そういうところをどうやって救っていけるのか、サポートしていけるのか。そういうところがこれから、まだ小学生ですけども、もうちょっと半年ぐらいたったら中学生ぐらいの会話ができればなど考えております。

山田委員 山田です。地域の魅力発信とまちづくりということで、さっきからちょっと話が出ていますように、最終的には市民の方にうまく結びついていくような活動に持っていかなきゃいけないわけですけども、その3つの地域といいますか、野川、田園都市線の沿線、それからさっきお話に出ました向ヶ丘、3地区の方、皆さん、意識もかなり違うんじゃないかと思うんです。ですから、最終的に論議していった横断的に

いいものが出れば、それはすばらしいんですけども、場合によっては3本立てということもあり得るんじゃないかと思うんです。その辺は、皆さんのほうからアイデアも出ていました。実際に現場を見てやろうと。これは私は期待しております。

それから、滝本委員のほうからも出ましたし、また先ほど区長さんからもお話が出ました地理空間未来デザインのアジアソン。これは、出られていない方もおいでになるかと思うのでありますけれども、出かけたくなる、みんな健康になる町、地域資源の戦略的活用ができる町をテーマにしてみんなで論議した、ブレインストーミングしたということなんです。それで、秋山課長のプレゼンテーションもすばらしいこともありましたし、またここが会場になるということで、論議に加わる方も、宮前平から坂を登ってきたものですから、坂を実感して入ってきたと、こんなことありまして、ここにもおいでになっている方が随分ありますけれども。また、討議に加わられた方も、僕みたいなど素人もいますけれども、その小さなグループで出会った方なんかを見ても、いわゆる地方自治体にもう既にいろんなものを提案しているグループとか、つまり専門家ですね。それから、学校のセミプロみたいな方が多くて、滝本委員も言われたように、非常に熱気のある、本当に真剣になってやられていたので、今度はアジアソンのあれがどういう形でまとまって開示されてくるかというのが非常に興味があるんです。開示すれば、出ていない方も我々を通してその情報を見られることになるわけなので、生かせるものはできるだけ生かしてやれば、めっけもんですから、よろしく願いしたい。こんな感じです。よろしく申し上げます。

大槻委員 私はこっちの次世代部会なんですけれども、一言だけ高齢者部会のほうにちょっと意見を申し上げたいのは、先ほど平均寿命が、あれは男性ですね。第2位というのが去年発表されたわけなんですけれども、やはり問題は平均寿命と健康寿命ですね。その平均寿命と健康寿命の差がワニの口のようにどんどん開いてきているんですよ。ですから、やっぱり健康寿命を高めていかないといけないだろうと。先ほど細谷さんのほうから財政問題が出ましたけれども、やはり健康寿命を延ばすことによって医療費も削減されるし、宮前区の財政的な問題も少し助けになるだろうと思うので、これをどういうふうにしていくか。ケアシステムも大事ですけども、もう1つはそっちも非常に大事だろうという意見を述べさせていただきたいと思います。

それから、自分のほうでございましてけれども、この間の第2回の部会、私だけ都合の悪い日だったものですから出席できなくて申しわけございませんでした。宮前区の魅力発信という話がありましたけれども、やっぱりどこに発信するのか、何を発信するのか、3番目にどのようにして発信するのかというような3つを考えないといけないだろうと思うんです。どこに発信するのかというのは、私は、宮前区の中で競争し合ってもしょうがないんじゃないかな。やはり川崎市以外のところから訪れてくれるような魅力、そういうものがあって、そうすると、宮前区に金が入ってくる

んです。財政も助かるんですよ。そういうようなことでやっぱり発信していかないといけない。宮前区の中で発信するんじゃなくて、その外に発信していく。だから、この9ページにもありますように、そのためには、ITの活用であるとか、そういうようなことをどんどんやっていかないといけないのではないかなというのが、どこに発信するかという問題。それから今何を発信する、どういう魅力が、宮前区以外の人々が魅力を感じずるようなものは何があるのかということです。そこを出していかないといけない。

先ほど小田さんからいろいろお話がありましたように、あるいはまちづくり協議会のほうでもいろいろずっと調べていることがあるので、そういうようなものを総合して、川崎市以外の人々にとっても魅力あるものを探し出していかないといけないだろう。あるいはつくり出していかないといけないだろう。例えば坂が非常に多いので、セグウェイというのを知っていますか。あのセグウェイというのは立ちながらぐっと走る車なんです。ああいうセグウェイを導入して、坂道でも何でも自由に魅力あるところを、若者でもおもしろがって飛び歩くというセグウェイなんかも導入したらどうなんだろうかなというような感じが、例えばですけれども、するわけです。そういうようなところでほかに発信していかないといけないだろうということです。

それから、やっぱりそのためには、9ページにもありましたように、交通インフラの改善をしていかないと、よそから余り集まってこないよということかと思えます。

それから、先ほどありましたように、そういう魅力発信のほかに、最終的にはどのような宮前区にしていくのかということですけれども、やはりそこにありましたように、高齢化がどんどん進んでいく中で、若者が住めるような地域にしないとイケないだろうということだと思えます。そのためには何をすべきかということを考えていかないといけないのではないかなということでございます。

葛西委員 葛西育子です。ワールドカフェというのをやっていったときに課題としてよく出たのが、やっぱり3地区、向ヶ丘、宮前、野川・有馬地区という3地区の年齢的、年代の差が、やはり宮前とかは若いですし、向ヶ丘地区は高齢化ですし、野川・有馬というのはどれぐらいかちょっとわからないんですけども、差がすごく大きいというような話が出ていまして、私もすごく感じていたんです。実際ボランティアとして活動しているのは宮前地区なんですけれども、実際私が住んでいるのは向ヶ丘地区なものですから高齢の方が多いというのが実情でして、その中で、宮前地区の若い人たちは若い人たちしかいないのですごく息苦しそうなんです。うちは向ヶ丘地区で子育てをしまして、私としては高齢者の多いゆとりのある感じがすごくよかったですけれども、そういう中で、特に私なんかは向ヶ丘に若い人が来てよという発信がしたいんです。宮前の中でもとみに自然も多いし、御高齢の方もいて落ちついた雰囲気があるし、来てよというのを発信するに当たって、まずは、宮前区の中の向ヶ丘にしる、

宮前にしろ、どこにしろ、どこがいいの、どんなところがいいのということを発信して行って、まず来てみてもらって、見てもらって、いいところ、そうだね、では住んでみようかなというようなものができるといいなと今は思っています。

青柳委員 ちょっとこれはお門違いというか、検討違いかわかりませんが、私自身、なるほど、これが魅力だということは、どのぐらい前までですかね。川崎の工場、今は観光夜景ということで、工場夜景ということで、すごい観光地、人を呼べるイベントになっておりますよね。といいますのは、何年か前までは工場の排煙ですか、あるいは臭気、その工場界隈の環境は非常に目に余るものだったものが、一転して人を呼べる1つの川崎市の目玉になった。ということは、やはり我々は、身近にある観光資源に限らず、何気なく見ているものでも、見方によっては魅力に変わっていく。それを仕掛けていくのがやはり人であり、その地域に住んでいる者ではないのかなという気がいたします。

といいますのは、これもつい最近ですか、高津区で外国人向けに区内を回るバスツアーを企画しておりますよね。といいますのは、やはり高津に住んでいる外国人の方々に高津をもっと身近に感じてもらうという意図で恐らくバスツアーを無料で組んでいる。そういうところを地元に住んでいる方が身近に感じて、住んでいるところを好きになって誇りに思えるようにつくり出していく。今、大槻委員からも話がありましたように、区内だけに財産を置いてはもったいないということですよ。やはりそれは観光資源としてもし活用できる方向に行ったら、これは川崎市が函館とか四日市のほうですか、工場夜景を組んだ、1つのタグを組むような形で宮前独自の魅力を外に発信していく。それも、紙ベースだけじゃなくして、今お話がありましたようなIT関係の情報を発信していけるもの。そんな魅力をやはり何気ないところからつくり出すんじゃなくて掘り出して、もう1度それを足元で我々が掘り出していく。そこから、区内の人たちもちろんですけども、やはり行く行くは外に発信して、来ていただいて宮前区にお金が落ちるような仕組みをつくっていかなくちゃいけないのかなと思います。

それと同時に、宮前区内には、自分自身もまだちょっと未熟ではありますけれども、人の財産もあれば、恐らくそういう川崎市を代表するような工場も探してみればあると思うんです。そういう産業を含めた、自然を含めて探してみて、魅力というものを見つけ出したら、ちょっと違った魅力発信ができるのかなという気がいたしました。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。素晴らしいお話、皆さんのいろいろなお話から課題がもうかなり見えてきたところもあるかと思うんです。

それでは、質疑、意見交換の最後に、きょうは参与の竹田先生がお越しですので、一言二言、お話いただければと思います。

竹田参与 参与として参加させていただき、また発言の機会をいただきまして、加えて各部会、また皆様、委員の方々からの貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。私から少しだけお話しさせていただきたいと思います。

各委員の方々からお話がありましたとおり、宮前区は各地域特性がそれぞれにございまして、私はずっと菅生出身で育ってきたんですが、今は鷺沼駅前に住んでおりまして、全く違うということが挙げられます。両部会に通ずることだと思うんですけども、それぞれの地域に、稗原とか、また鷺ヶ峰のほうで御活躍されている高齢者の方々への高齢者問題の取り組み、また、各さぎ沼商店会とかで魅力発信に努めていらっしゃる方が委員にもいらっしゃるもので、そういった部分、それぞれの御意見を合わせて、これから区民会議でどうしていくかということをお話し合われるのが非常にこれからの発展につながると私は思っているところでございます。

それから、それに付随しまして、この間の日曜日、宮前区民祭、皆様、区役所の方々、お疲れさまでございました。私も参加させていただきまして、ことしは北部市場の再整備の関係がありまして、開催地がこの周辺、宮前区役所周辺ということになりまして、ふだん北部市場で開催される際には、警察発表では約20万人の動員参加者の方々ということでしたが、ことし確認したところ、ことしの日曜日の宮前区民祭の動員参加者は4万人ということでありました。やっぱり規模が縮小してしまっしょうがない部分がありますけれども、ふだんいらっしゃる方々が、結構参加してくださっている部分がありました。やっぱり地域、宮前区役所に行きにくいという方もいらっしゃると思いますが、北部市場にも行きにくいという方々もいらっしゃる部分もありますので、それはやっぱり宮前区役所へのアクセスのしにくさ。今、宮前区役所の方々がバスの路線のことでいろいろと御尽力されていると思いますけれども、そういった部分もあるということをお改めして認識したところでございました。本当にいつもいらっしゃる同級生とか地域の方がことしの区民祭にはいらっしゃるというところがあったので、それは来年からどうなるか、また北部市場に戻るかどうかまだ未定な部分はありますが、やっぱり宮前区には大きな地域性、地域性、地域性、それぞれにお住まいになっている方々の地域性、また交通の足の部分がありますので、そういった部分、各委員の方々の地域のお声を吸い上げていただいて話し合われていただくことが望ましいのかなと恐れながらに思います。

それからもう1つ、宮前区の平均寿命のお話がありましたが、資料にもあるとおり、最新の平成22年の厚生労働省の発表で、第1位が長野県の松川村、第2位が川崎市宮前区、第3位が隣の横浜市の都筑区なんです。これは私もやっぱり気になって、私も宮前区で長生きしていきたいと思っております、何でこういう結果になっているのかなと調べても、なかなか答えが出せないんです。各地域地域ごとに数字を出せば結果が出るのかなとは思いますが、そうではなくて、やっぱり隣の都筑区

も、男性の平均寿命が全国の市区町村の中で第3位という結果があるということは、住みやすいのか、交通の便がいいのか悪いのか、よくわからない。それか、戻ってくる方が多いのか。よくつかめない部分がありますので、その点もちょっと踏まえて私自身も調査をしていきたいと考えているところでございますが、皆様からお知恵をいただければと思います。

それから、もうちょっとお時間いただいて、余談ですけども2点ほど。先ほど小田委員のほうからハクビシンとタヌキのお話でしたが、私も潮見台で昔、ハクビシンを見たことがあります。お化けかなと最初、真っ白い細長い。タヌキの親子も、ちょっと前に稗原小学校裏で見ました。先ほどそういった情報発信もしていくほうがよろしいという御意見がありました。まさにそのとおりだと思ひまして、実は、ことしから川崎市は、かわさき生き物マップというウェブページを立ち上げまして、そこで生き物を発見した情報を投稿して、川崎市が地図上にマッピングをして皆さんに見てもらおうという、そういった取り組みをしています。初期投資500万円でこれからも続けていくというところですが、この間議会で取り上げたんですけども、皆さん、それを全然知らなくて……。

小田委員 お話中に済みません。5月か6月ごろに宮前区のタウンニュースにそのことが載っていたんです。

竹田参与 そうでしたか。

小田委員 はい。切り取ってとってあるんですけども、こういうことを市ではやるんだなど。

竹田参与 そうなんです。しかしながら、4月から始めて約半年で2500件ぐらいしかアクセスがなくて、全く鳴かず飛ばずの状況なので、学校教育とも連携してやっていくようにということで議会のほうでも話し合いがとれたところなので、ぜひ地域の方、また小田委員も投稿などして御活用いただければと思います。ありがとうございます。

最後に、宮前区の次世代、また地域の魅力発信についてなんですけれども、ちょっと話はそれるかと思いますが、今月上旬にそのフロンタウンさぎぬまで、アンプティサッカーの全日本の選手権大会。アンプティサッカーを御存じでしょうか。手足を失われた方が松葉杖をついてサッカーをする。そのフロンタウンさぎぬまで日本一のチームを決めるという、そういった大会が開催されました。馬絹のチーム、アウボラーダ川崎がなんと日本一になりまして、宮前区長も、また佐々木副委員長もいらっしゃって観戦されたと思うんですけども、本当に九州地方や大阪、関西地方の方々も多く観戦にいらっしゃって、私も観戦しましたが、すごく感動できる。これはもしかしたら五輪種目になる。ちょっと東京オリンピックには間に合わないかもしれませんが、すごく可能性がある、そういった宮前区の大きな注目の的となるスポーツ

競技であり、また宮前区の星であると思いますので、皆様からも御注目いただければと思います。

済みません、最後のほう、ちょっと話題とはそれました。長くなりましたが、以上でございます。ありがとうございました。

宮崎委員長 こちらこそ、どうもすばらしいお話、ありがとうございました。

それでは、議事の4番目ですが、今年度の締めくくりとして、来年の3月に開催されます区民会議フォーラムについて、事務局のほうから、その内容並びに趣旨等を含めて、ちょっとお話しいただければと思っています。

事務局（岩下） それでは、私のほうから、皆さん、資料の11ページを開いてごらんいただけますでしょうか。

宮前区の区民会議では、第4期でもそうでしたが、毎年度末にフォーラムという形でイベントを開催しております。今年度も同様に開催しようということで、事務局、企画部会等でこれから準備を進めていくことになるかと思っています。

こちらにあります、まず目的ですが、1つは区民会議の組織、活動、討議内容を広く区民の方に知っていただくということです。それから、もう1つがその討議内容に関して、区民の意見を伺ったり、パイロット事業ということで取り組みの試行等を行って、それをフィードバックさせて、またさらなる検討、任期2年目に生かしていこうということがあります。

今年度の日時ですけれども、済みません、ちょっとここを間違えています。平成26年ではなくて、平成27年になります。3月中旬の年度末、3月中旬の週末、日中ということで、候補日がこちらに書いてございますが、今のところ、15日日曜日に開催の方向。それから、8日、14日は予備日ということで進めたいと思います。

それから、所要時間ですが、これは企画内容にもよるかと思いますが、最も短くても2時間ぐらいから、過去にはいろいろな企画を盛り込んで、昼食を挟んで6時間ぐらいやったこともありました。過去にどんなことをやったかはまた最後にお話をしたいと思います。

会場ですけれども、宮前区内に当然なるかと思いますが、企画内容、日程等に合わせるということになるかと思っています。今のところ、区役所4階の会議室は仮予約ということで押さえております。ただ、内容によっては、出張所ですとか市民館、あと活動の現場、外でやることなんかも考えていく可能性もあるのかなと考えております。

対象者、これも企画内容によるかと思いますが、どんな方に来ていただいて意見を伺いたい、どんな区民をターゲットにするかということもこれからの検討事項かなと思っています。このままいきますと、やはり部会で検討した内容にかかわる区民ですとか、皆様がふだん活動されている活動団体等を中心に声をかけていくことになるのかなと思っています。

企画内容ですが、まず最初の目的にもありますとおり、区民会議の紹介、活動経過報告というのは何らかの形で必ず入れなくてははいけなかなというのが①です。

それから②ですが、区民会議の今期の審議内容を踏まえて、来ていただいた方にそれに関する理解を深めていただいたり、意見や情報交換ができる場としての企画ということです。ここに幾つか例がありますが、これからの検討事項です。例えば、過去の例でもありましたが、講演会。それから、関連する活動をしている団体の方に来ていただいて情報交換や発表の場にする。それから、活動を体験したりワークショップ、参加型、話し合いの場にする。それから、何か提案がある程度固まるようでしたら、その試験的な場としてもいいかなと思っております。

これも例えばですけれども、今の検討がそのまま進むようであれば、高齢者部会であれば、先ほども部会の発表でありましたが、認知症ですとか高齢者の方々が集まるふれあいカフェを区民会議フォーラムの場でもやってみるですとか、見守りの活動を実際にちょっとやってみる。次世代部会でしたら、バスツアーのコースを実際、例えば午前中に回ってみるですとか、お土産物をプロデュースしようというお話もありましたので、例えば宮前区の産物の試食会みたいなもの。あと、C級グルメの取り組みもここ数年進められておりますが、そういったものを参加していただいた方と一緒に体験するというような企画もあり得るのかなと思います。

下に第4期の区民会議フォーラムの参考ということで記してございますが、第4期の1年目、平成24年度は、区内の名所、特に市民活動の現場をめぐるウォークラリーというのを2コースで企画いたしました。その中で宮前区に関するクイズを解いたり、みやまえカルタ、これは第3期の提案でできたものを体験するといったようなことを楽しみながらやりました。25年度、第4期の年度末ですが、審議テーマにかかわる市民活動団体の方をお呼びして、互いに活動を紹介し合ったり、世代間ということがテーマになっていましたので、世代間で楽しめるゲーム形式のプログラム等を展開したということがあります。

現時点では大ざっぱな概要ですが、今後、企画部会等を中心に検討していくことになると思います。また、各部会でも皆さん御意見がありましたら、どんどん出していきたいですし、何かありましたら事務局のほうにもいつでもお寄せいただければと思います。

私の説明は以上です。

宮崎委員長 ありがとうございます。この件に関して何か御意見があればお伺いしたいと思います。どなたかおられますでしょうか。

それでは、時間もちょっと押していますので、その他議事の5ということで、フォーラムについては以上となります。今後、企画部会を中心に内容を検討して、随時各部会で検討させていただければと思っております。

次に、この区民会議のオフィシャルネームカードに関して青柳委員のほうから。

青柳委員 私自身、区民会議で活動し始めて1つ感じたことがあったんですけども、やはりこの活動を通して、今後、外に出ていく機会が出てくると思うんです。そういうときに、いただいている名刺だけじゃなくして、区民会議と入ったタグをつけてそういうところに出かけてみたいと。やはり区民会議というものを今外のほうにも発信しておいたほうがいいような気がいたしました。自分自身、いろんな意味合いでちょっと取材なんかの活動をしたりしているときに、やはり名刺だけだとどうもインパクトが弱いんです。そして、やはりタグを持っていることによって、当然変な態度ですか、そういうことも自覚するというんですか、けじめをつけられるような、ぴしっとするような気持ちにも当然なりますし、やはり活動を区民1人1人の人たちにも理解していただけるようなことを含めてタグを用意していただいたらどうかなということが自分の考えです。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。そういうことで、名札のデザインだとか使用に関する取り決め等々は企画部会で詰めさせていただければと思っておりますので、皆さんに御利用いただけるよう事務局と調整させていただきます。

以上で、本日の第3回全体会議の審議をこれで終了いたします。皆様、どうもありがとうございました。

あと、事務連絡等に関して事務局のほうにお願いいたします。

司会（豆白） 宮崎委員長、どうもありがとうございました。

それでは、今ありましたように事務連絡がございますので、企画課の小山より説明させていただきます。

事務局（小山） 企画課の小山と申します。よろしくお願いたします。

まず、私のほうからの事務連絡の前に、委員の方から活動報告ということで、この場で御報告させていただきたいというお申し出がありましたので、まず、田辺委員からお願いできればと思います。よろしくお願いたします。

田辺委員 活動報告ではないんですが、数カ月前に皆さんと飲み会をやったときに、意外とまちづくり協議会について余り知らない方が多いなと思ひまして、まちづくり協議会ではいろんな印刷物をたくさんつくっていますけれども、これが一番いいかなと思ひってお持ちしたのが「宮前区まちづくり・市民活動応援カタログ」というものでございます。これは市民活動団体さん向けにまちづくり協議会がどんな支援ができるかということを書いたものなんですが、それが目的なんですけれども、これを読んでいただくと、まちづくり協議会が何をやっているかということも同時にわかんと思ひますのでお持ちしました。特に魅力発信のグループさんのほうでは、これを読んでいただくと、結構似たようなことをやっているんだなというのがおわかりになるので、御参考になればと思ひます。ありがとうございます。

事務局（小山） 続きまして、佐々木副委員長からも御報告ということでお願いいたします。

佐々木副委員長 活動報告とちょっと宣伝を兼ねて、私が所属していますさぎ沼商店会のほうのイベントがちょっとありますので、そちらを御案内させていただきたいと思えます。

前回もことしの1月に行ったんですが、まちゼミという企画を行います。これは、各商店会に所属する店主が、それぞれ自分の専門分野が必ずありますので、それを市民の皆様幅広く無料のゼミという形でお伝えするという企画です。今回、主催はさぎ沼商店会で、川崎市の後援も得ておりますので、それがタウンニュースの中面、全面を使いまして御案内を出しておりますので、ちょっとそれを皆様に御案内させていただきました。開催期間は11月1日、来月1カ月間、全部で29講座ございますので、ぜひ御興味のある講座がございましたら、それぞれの店舗に御連絡いただければと思います。

以上です。

事務局（小山） ありがとうございます。

それでは続きまして、私のほうから、今後の日程について御案内させていただきたいと思えます。お手元の次第の中ほどにございますので、ごらんいただければと思います。

まず、高齢者部会。次回の第3回の部会でございますが、11月13日木曜日、18時から区役所の第3会議室で開催を予定しております。

また、次世代の部会につきましては、先ほど青柳部会長のほうからも御報告にございましたが、11月中旬にバスツアーを3回程度に分けて実施する予定でございます。詳細については、また改めてメール等で御連絡をさせていただきたいと思っております。このバスツアーの後に第3回の次世代部会の開催を予定させていただいております。

また、その後の第4回の、次回の全体会につきましては、年明け、27年の1月の下旬から2月の月上旬で予定をさせていただいております。この部会の日程につきましては、各部会の進行状況等によって調整をさせていただきたいと思っております。また、改めまして12月ごろに調整について御案内させていただきたいと思っております。

最後に、区民会議交流会についての御案内でございます。区民会議交流会といえますのは、各区の区民会議の委員、皆様の情報交換ですとか相互の連携を深めるための交流会でございます。こちらにつきまして、今年度は年明け2月9日の月曜日18時から、南武線の武蔵中原駅の駅前にございますエポックなかはらで開催を予定しております。もう既に一旦委員の皆様には出欠の確認等をさせていただいているところで

ございますが、2月9日、本番の日程が近づきましたら、また改めて詳細の御案内と出欠確認をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

私からの事務連絡は以上でございます。

司会（豆白） ただいま小山のほうから今後の事務連絡等々ございました。何か御質問はございますでしょうか。

山田委員 一番最初にお話がありまして、このアンケート用紙は伺いましたけれども、これの提出期限とか、そういう何かスケジュール的なものはあるんでしょうか。

司会（豆白） ただいま総合計画の区民意見のスケジュール観、いつごろまで締め切りということであったんですけども、何か企画のほうでわかりますか。——済みません、今ちょっと締め切りはわかりませんので、後で皆様のほうへ御案内をさせていただきたいと思います。多分、ホームページを見ると出ているとは思うんですけども、またその辺は調べて御連絡させていただきます。ありがとうございます。

その他、ございますでしょうか。よろしいですか。

本日は、長時間にわたりましてありがとうございます。皆様の大変白熱した議論がありましたということで、定刻の時間がかなり過ぎてしまいましたけれども、大変ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、第3回会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。またよろしく願いいたします。

午後7時58分閉会